

社会福祉法人初穂会
平成 26 年度

事業報告



特別養護老人ホーム稲毛こひつじ園
短期入所生活介護
通所介護
居宅介護支援センター

ほっとスペース稲毛ペコリーノ

目 次

平成26年度事業報告に寄せて

1. 施設の概要	1
2. 法人本部	4
3. 組織図	5
4. 法人理念・基本方針・重点課題の遂行状況	6
5. 職員配置状況	7
6. 施設サービス課	
6-1 介護部門	10
6-2 医務部門	11
6-3 生活相談員部門	14
6-4 介護支援専門員部門	17
6-5 栄養部門	18
7. 居宅サービス課	
7-1 短期入所生活介護部門	22
7-2 通所介護部門	24
7-3 居宅介護支援センター部門	27
8. 事務課 事務部門	29
9. ほっとスペース 稲毛ペコリーノ部門	31
10. 委員会	
10-1 拘束廃止検討委員会	33
10-2 安全対策委員会	33
10-3 感染症・食中毒におけるまん延防止委員会	37
10-4 褥瘡対策委員会	38
10-5 防災委員会	39
10-6 衛生委員会	39
10-7 介護力向上委員会	40
11. その他	
11-1 ボランティア	40
11-2 家族面会	41
11-3 EPA (インドネシア人 介護福祉士候補生受入)	42
11-4 納涼祭	42
11-5 文化祭と敬老会	43
11-6 「ハッピー」と「ノア」と「ジョー」	44

平成 26 年度事業報告に寄せて

平成 26 年度の事業報告書を上梓いたします。

昨年は、地域福祉向上のために何が出来るかを問い直し、実践していく第一歩の年であったと考えます。地元自治会・子ども会と共同で開催した納涼祭。利用者・居住者のご家族や地域の方々にもご参加いただいた文化祭や敬老会、芸能ショー。施設内各自業所の日常活動に組み込まれたボランティアの方々のご活躍。その他、記憶に残る催事、行事は枚挙に暇ありません。

また、稲毛区小仲台に 11 月より「ほっとスペース稲毛ペコリーノ」をオープンし、介護教室の開講や児童生徒への学習支援、ボランティア活動支援に着手したことで、初穂会の地域貢献が更に広がりと深みを増しつつあります。

今後はこうした活動内容を更に充実させることで地域住民の方々、福祉・教育関係者との繋がりをより強固なものにして参りたい所存です。

但し、介護を担うひとづくりは、やっと緒についたばかりです。予防を含めた認知症介護、ターミナルケアやグリーフケアといった様々な側面で職員の技量を向上させていくことが急務です。各職員の能力向上や学びのモチベーションをバックアップすることで施設全体における質の高いチームケアを実現していきます。

また、初穂会を選んでくれた職員に「一生働いていきたい職場」と感じてもらえる職場環境づくりを進めることを常に念頭に置き、職員の福利厚生を一層高める施策を講じて参ります。

平成 27 年 5 月 24 日

社会福祉法人 初穂会
理事長 平賀 雅道

1. 施設の概要

- (1) 経営主体 社会福祉法人 初穂会
- (2) 施設名称
- 社会福祉事業 特別養護老人ホーム 稲毛こひつじ園
《介護保険法指定施設》
- 介護老人福祉施設
事業所番号 (1 2 7 0 3 0 0 9 1 4)
指定年月日 平成 18 年 11 月 1 日
- 短期入所生活介護
事業所番号 (1 2 7 0 3 0 0 9 1 4)
指定年月日 平成 18 年 11 月 1 日
- 通所介護
事業所番号 (1 2 7 0 3 0 0 9 4 8)
指定年月日 平成 18 年 12 月 1 日
- 居宅支援
事業所番号 (1 2 7 0 3 0 0 9 6 3)
指定年月日 平成 19 年 3 月 1 日
- 公益事業 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ
《介護職員等養成研修事業》
- (3) 所在地
- 主たる事業所 〒263-0012 千葉県千葉市稲毛区萩台町380番地2号
電話 043-207-5599 F A X 043-207-5598
- 従たる事業所 〒263-0043 千葉県千葉市稲毛区小仲台2丁目12番2号
電話 043-306-8520 F A X 043-306-8521
- (4) 理事長 平賀 雅道
- (5) 施設長 平賀 弘美
- (6) 法人設立年月日 平成 17 年 9 月 15 日
- (7) 施設設立年月日 平成 18 年 11 月 1 日
- (8) 施設形態 新型特養『全室個室・ユニットケア方式』
- (9) 定員 特養 90床 ショート 18名 デイサービス 30名
- (10) 敷地面積 5,306.59 m²
- (11) 延床面積 5,253.78 m²
従たる事業所 156.38 m²
- (12) 設備・装置 エレベーター2基、特殊浴槽3基、リフト浴槽3基
リフト浴槽(個粹)1基(H23.5設置)
リフト付き車両3台、軽リフト付1台、普通車4台、軽自動車3台
- (13) 関連の社会福祉法人・医療法人
- 医療法人社団 小羊会
医療法人社団 興明会
社会福祉法人 小羊会
社会福祉法人 千葉育美会

(14) 嘱託・協力医療機関

協力医療機関 稲毛病院
嘱託 高洲訪問クリニック

(15) 防災対策整備状況

1. 緊急連絡網の設置
2. 消防計画の届出
3. 年2回の消防訓練・避難訓練
4. 災害時の備蓄
 - 1) 施設での備蓄
 - ① 飲料水（詳細は栄養より別途報告）
野菜ジュース 62.7リットル
調理用水 120.0リットル
 - ② 食糧 3日分（一部、賞味期限切れ前に消費し新規購入。）
（詳細は栄養より別途報告）
 - ③ 医薬品 医務室保管
 - 2) 自家発電
エレベーター等緊急用
 - 3) 入居者個人用飲料水 1,080リットル 一人当たり12リットル（居室）
 - 4) 受水槽 26.5Kリットル
 - 5) 電気停電に備え、ガス発電装置の設置によりユニット共有部分及びユニット・トイレの照明確保（平成26年12月設置）

【食糧備蓄（リスト）】

H27.4.1 現在

品名	単位	期限
炊き出し白米セット	8ケース（50食入）	2017/06/30
白粥	6ケース（50食入）	2017/07/30
	4ケース（50食入）	2016/04/30
焼きとり（たれ）	65g×24缶×2ケース	2016/07/19
	65g×24缶×6ケース	2016/08/05
焼きとり（塩）	65g×24缶×8ケース	2016/07/30
ライトツナチャンク	1750g×12缶	2015/07/19
かつおフレーク味付	450g×20P	2015/07/01
チキンそばろ味付	900g×6P	2016/05/20
さんま蒲焼き	固形1500g×6缶	2015/10/04
	固形1500g×2缶	2017/04/21
	固形1500g×3缶	2017/08/01
	固形1500g×1缶	2017/12/11
さば味噌煮	固形1400g×4缶	2015/10/19
	固形1400g×1缶	2016/05/01
	固形1400g×1缶	2017/03/15
	固形1400g×2缶	2017/08/19
	固形1400g×2缶	2017/09/11

みつ豆フルーツ	1号缶×2缶	2016/03/27
	1号缶×2缶	2016/4/25
みかん缶	1号缶×3缶	2015/12/01
	1号缶×1缶	2017/01/01
フルーツカクテル缶	1号缶×1缶	2016/02/01
	1号缶×3缶	2017/03/01
ミニふりかけ（しそ）	50個×2袋	2015/10/14
ミニふりかけ（カツオ）	50個×2袋	2015/11/19
ミニふりかけ（のりたま）	50個×2袋	2016/01/15
水	2L×6本入り×10ケース	2017/06/20
野菜1日これ一本	190ml×30本×7箱	2016/10/23
野菜生活100オリジナル	190ml×30本×4箱	2016/12/27
濃厚流動食（400Kcal）	3個	随時入れ替え
濃厚流動食（300Kcal）	6個	＃

※経管栄養対象者1名のみ。

1日400kcalを1個、300kcalを2個使用。非常食として3日間分確保。

保管場所 ⇒ 食品庫内・非常食専用ラック（栄養）

※主食100食×3日分 主菜等400食×3日分 水100食×1日分

※入居者は一人12リットルの飲料水を別に確保。

職員用として一人12リットルの飲料水を各部署に分散して保管（H26.5より）。

※受水槽に26.5Kリットル。

5. 備品

- 1) 1. 2Mバール 4本（各階1本・宿直室1本）
（鉄扉・扉開閉及び重量物をてこの応用にて使用）
- 2) 拡声器・・・8台（各階2台・デイ1台・事務1台）
- 3) ジャッキ（4トン用 車用・・・重量物の持ち上げ）
- 4) 緊急災害用炊飯器 2台
（非常用・催事兼用かまど・・・LPガス・薪兼用）
- 5) ガソリンエンジン発電機（非常用・催事兼用） 2,500W
- 6) 緊急危避難用備品倉庫（千葉市より寄贈）

6. その他

- 1) 緊急連絡網のメール等を利用した【一斉同報システム】
日常の職員通用口暗証番号通知に使用し、メンテナンスを実施。

2. 法人本部

【役員等】

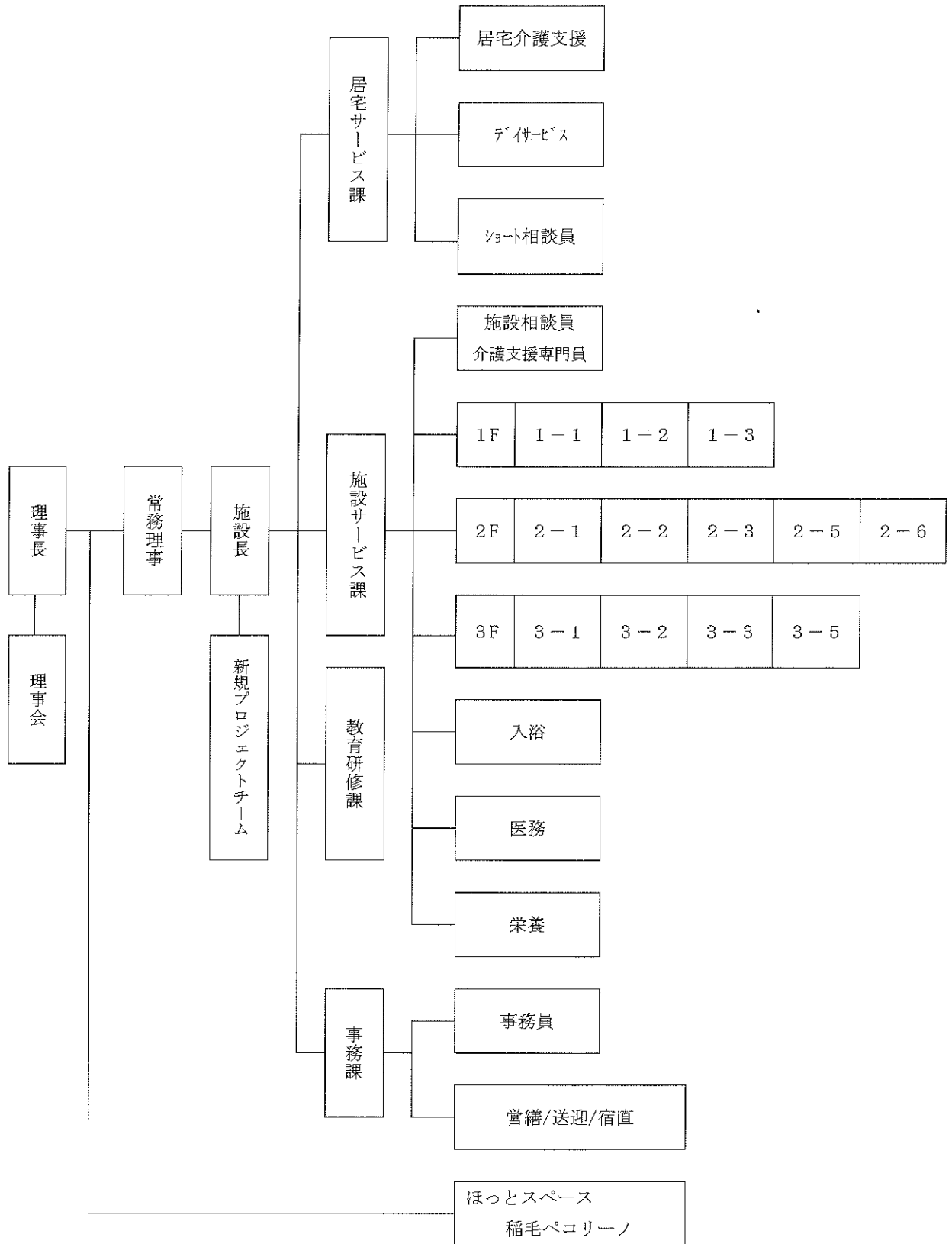
平成27年3月31日現在

No	役職名	氏名	主な関係役職	任期満了日
1	理事長	平賀 雅道		H27.9.14
2	理事	長沼 信治	医療法人社団小羊会 理事長	H27.9.14
3	〃	青柳 貞一郎	医師	H27.9.14
4	〃	田村 千代子	社会福祉法人 理事長	H27.9.14
5	〃	平賀 弘美	稲毛こひつじ園 施設長	H27.9.14
6	〃	菅原 哲郎	萩台天台あざみ自治会民生・児童委員	H27.9.14
7	〃	藤江 岩美	萩台町住民	H27.9.14
8	〃	濟木 昭宏	弁護士	H27.9.14
9	〃	廣田 勝太郎	医師	H27.9.14
10	〃	菅原 靖顕	セントケア東京(株)勤務	H27.9.14
1	監事	小松崎 丈司	(有)アイビープランニング 代表取締役	H27.9.14
2	〃	伊藤 幸江	元福祉センター相談員他	H27.9.14

【理事会の開催状況】

開催年月日	出席者数	審議事項
平成26年5月25日	理事10名	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度事業報告・決算案件 役員改選 定款変更 苦情解決委員会第三者委員交代 その他案件
平成26年9月23日	理事 8名 【書面出席2名】	<ul style="list-style-type: none"> 補正事業計画・予算案 その他案件
平成27年3月22日	理事 9名 【書面出席1名】	<ul style="list-style-type: none"> 定款変更案件 諸規程変更案件 隣接駐車場案件 平成27年度事業計画・当初予算案件 その他案件

3. 組織図



4. 法人理念・基本方針・重点課題の遂行状況

法人理念及び基本方針を達成するために、またユニットケアに対する姿勢を会得してもらう為、次の内容を実施した。

1. ユニットの共有スペースで快適な居住空間を確保するため改装した。
2. 排泄姿勢を楽に維持できるよう【ふんばる君】を各ユニットへ導入（介護力向上）を図った。
3. 職員が率先したQC活動を、ユニットにて実行し、ユニットケアの改善につなげた。
4. 地域交流室の自治会・子供会の利用、及び地域での活動の場として開放した。
5. 入居者・利用者の嗜好に対応すべく、パン・パイの販売、更には毎週おしるこや甘酒の販売を行い、8割近くの入居者が利用した。

【平成26年度重点目標】

I 稲毛こひつじ園の発展

- 1 ユニット毎の豊かな生活支援、個別ケア・認知症への理解度を深める。
認知症への理解は、看護師と介護職員のリーダーに該当する職員が研修を実施し、その基盤づくりを行なうことができた。
- 2 「食」の提供
入居者・利用者の楽しみの大きな部分を占める食においては、それまでの外部業者による嗜好品販売（パン・パイ・ヤクルト等）のみならず、甘酒やおしるこ等の提供を毎週実施し好評を得た。
- 3 健康管理（入居者・利用者）
入居者・利用者に対して、アロマセラピー・カイロプラクティック・マッサージ等の取り組みを行っている。また納涼祭や文化祭等、家族が集まる催事には無料体験等を行い、家族理解を深めている。
- 4 研修体制
介護力向上講習に参加し、参加メンバーから一般職員へ意識の徹底に工夫を凝らし、結果を出せるようになった。
- 5 記録の電子化
ワイズマン導入により、介護記録が一元化され業務の円滑化が図れた。
記録の電子化により、入居者の通院や緊急搬送の際にも、介護記録・看護記録を携帯することにより医療機関への情報提供も的確となった。
- 6 給与・職位体系、福利厚生
 - 1) グループ全体のスケールメリット
 - 2) 法人への貢献度を反映した体系づくり
次年度も継続して行っていく。

7 新会計基準への移行

平成26年度よりの新会計（PCA会計）への導入が実施された。

II 新たな取り組み

1 講演会・セミナーの開催。

- 1) 地域住民を対象とした講演会やセミナーの開催
- 2) 入居者家族を対象とした講演会やセミナーの開催
懸案事項として継続。

2 託児事業計画

懸案事項として継続。

5. 職員配置状況

一般募集も継続して行うとともに、初任者研修事業（稲毛ペコリーノ）からの初任者研修修了者を確保し、また海外（EPA）の介護福祉士候補生の受入れにより雇用を確保する。

【勤務形態別状況】

平成27年3月31日現在

区 分	常 勤	非常勤	計 (人)
施設長	1	0	1
事務長	1	0	1
施設・居宅サービス課長	1	0	1
特養生活相談員	1	0	1
特養介護支援専門員	1	0	1
特養介護職員	42	12	54
特養看護職員	4	0	4
介護補助/食事介助	0	7	7
管理栄養士	1	0	1
理学療法士	1	0	1
事務課	3	1	4
営繕・運転手	2	9	11
短期生活相談員	2	0	2
デイサービス生活相談員	2	0	2
デイサービス介護職員	6	2	8
デイサービス看護職員	1	0	1
居宅介護支援センター	2	0	2
ほっとスペース 稲毛ペコリーノ	3	0	3
合 計	74	31	105

【職種別配置状況（介護老人福祉施設）】

平成27年3月31日現在

区分	施設長	事務長	サービス課長	施設・居宅生活相談員	介護支援専門員	機能訓練指導員	医師（＊）	看護職員	介護職員	介護補助等	管理栄養士	事務員	営繕・運転手	栄養士・調理人	合計
常勤	1	1	1	3	1	1	0	3	42	0	1	3	2	委託	59
非常勤	0	0	0	0	0	0	(1)	0	12	7	0	1	9		29

*医師は業務委託

【職種別配置状況（通所介護）】

平成27年3月31日現在

区分	センター長	生活相談員	理学療法士	看護職員	介護職員	合計
常勤	(1)	2	1	1	6	10
非常勤	0	0	0	0	2	2

【職種別配置状況（居宅支援）】

平成27年3月31日現在

区分	管理者	介護支援専門員	合計
常勤	1	1	2
非常勤	0	0	0

【職種別配置状況（ほっとスペース稲毛ペコリーノ）】

平成27年3月31日現在

区分	管理者	事務員	合計
常勤	1	2	3
非常勤	0	0	3

【資格取得状況（老人福祉施設）】

平成27年3月31日現在

区分	男性	女性	合計
社会福祉士	2	1	3
社会福祉主事任用資格	7	10	17
主任介護支援専門員	0	1	1
介護支援専門員	2	5	7
介護福祉士	8	28	36
看護師	0	2	2
准看護師	1	2	3
ヘルパー1級	1	0	1
ヘルパー2級	8	27	35
初任者研修修了者	2	2	4
管理栄養士	0	1	1
栄養士	0	0	0
理学療法士	0	0	0
合計	31	79	110

【資格取得状況（通所介護）】

平成27年3月31日現在

区分	男性	女性	合計
社会福祉士	1	0	1
社会福祉主事任用資格	1	2	3
主任介護支援専門員	0	0	0
介護支援専門員	1	1	2
介護福祉士	2	4	6
看護師	0	1	1
准看護師	0	0	0
ヘルパー1級	0	0	0
ヘルパー2級	1	5	6
初任者研修修了者	0	0	0
管理栄養士	0	0	0
栄養士	0	0	0
理学療法士	0	1	1
合計	6	14	20

6. 施設サービス課

6-1 介護部門

【目標】

1. 新入職員の育成プログラムの確立
2. 看取り体制の確立
3. 一人一人に合った個別ケアの実施
4. ユニットにおける盛り付け・配膳＝給食配膳方法の検討実施
5. アクシデント・インシデントの活用
6. 職員の資質の向上（知識・技能）
7. 記録電子化の確立
8. 地域との連携

【施策・評価】

1. 新入職員の育成プログラムの確立
 - ・新入職員育成について、各階で研修ユニットを作る目標であったが、結果として1丁目2番地（1ユニット）となった。
2. 看取り体制の確立
 - ・各階で看取りケアを経験し、より良い看取りケアを行うことができた。
3. 一人一人に合った個別ケアの実施
 - ・毎週各ボランティアを受け入れ、個人ニーズに沿って余暇活動の生活支援を行なった。
 - ・1階の3ユニット利用者が合流し、共同でレクリエーションを行い有意義な時間を過ごすことができた。
 - ・協力ユニットで行事・活動を企画して利用者間の交流ができた。
4. ユニットにおける盛り付け・配膳＝給食配膳方法の検討実施
 - ・ご飯の配膳、汁物の温め配膳は全ユニットで実施し、常に炊き立てごはんを提供することができた。
 - ・全ユニットにお盆と箸置きを導入したことで、食事の雰囲気を変えることができた。
 - ・イベント食の際、松花堂弁当への盛り付けは食事提供直前に行い、温蔵、冷蔵おかずを分けて提供することで、適温での配膳が可能となった
5. アクシデント・インシデントの活用
 - ・月に1回安全対策会議を行い、アクシデント・インシデントの集計や、各階の具体的事例を分析した。
6. 職員の資質の向上（知識・技能）
 - ・ユニットの水分摂取量を順位づけし、更なる水分量増加・職員の意識向上が図れた。
 - ・排便を促すためサンファイバーに加え、オリゴ糖の使用開始となり、下剤使用率が大幅に改善された。

- ・毎週の各ユニットでのカンファを受けて状況確認会議を行い、更に月2回介護力向上委員会を開催することができた。
- ・介護力向上講習会参加者による定期的内部研修を実施できなかった。
- ・全体の具体的水分摂取平均、排便場所の変化について。

【水分摂取・排便場所】

	平成 24 年 3 月	平成 25 年 5 月	平成 27 年 2 月
排便場所（ベッド上）	32.2%	18.2%	8.5%
排使用具（おむつ）	33.3%	19.3%	11.7%
水分摂取平均	1086 cc	1321 cc	1426 cc

- ・職員技能向上の為医務と連携し、緊急時対応・喀痰吸引の内部研修を実施できた。

7. 記録電子化の確立

- ・電子記録の統一化が図れた。更に情報共有する為協力ユニットで共同申し送りの実施できた。
- ・週に1度状況報告を行い、多職種との連携・情報共有を行った。

8. 地域との連携

- ・地域自治会との連携を図り、共同で納涼祭を行った。
- ・職場体験・実習生受け入れを行い、施設が有する社会的な資源を地域に還元した。

6-2 医務部門

【目標】

1. 利用者が安心して暮らせる環境づくり
2. 看取り体制の強化
3. 職員の知識向上と教育体制の確立
4. 新規事業プロジェクトに参加し、より有効的な介護施設を創造する

【施策・評価】

1. 利用者が安心して暮らせる環境づくり
 - ・各フロアの担当者を中心に介護職とのコミュニケーションを図った。その結果下剤の使用を減らすことが出来た。しかし、各フロアの情報を医務内で共有することには不足していた部分もある。今後は各フロアの情報共有の強化に努めたい。
 - ・利用者の変調時に遭遇することが多かったものの、苦痛の軽減を図ることが出来なかったと考える。今後は変調時のシュミレーションを介護職と連携して定期的実施し早期発見・早期対応に努め、利用者の苦痛を最小限にしていきたい。
 - ・委員会の主導的立場を介護職としたものの看護職が主導になることが多くみられた。今後は介護職の医療等に関する知識・技能の向上に努めたい。
 - ・地域医療機関との連携を図るため交流の場へ参加し連携を深めた。今後も積極的に参加していく。

2. 看取り体制の強化

- ・各ユニットの情報と医務の情報をもとに、状況確認表を作成し関係部署へ配信した。
毎週実施した状況確認会議では介護主導での進行を試み医務はサポートを行えた。
- ・看取りカンファレンスでは介護職へのサポートや相談員と協同し、より良い最期にむけて利用者・家族の想いを尊重した対応策を提案することができた。

3. 職員の知識向上と教育体制の確立

- ・個々にではあったが、入職した介護職員へのOJTを実施した。
今後は看取りや変調時における医療知識・技術の伝達も強化したい。

4. 新規事業プロジェクトに参加し、より有効的な介護施設を創造する

- ・今後も新規事業を進めていくにあたり医療的提案を行うようにしたい。

【診療内容】

	内科	施設内 受診合計	外部受診	受診 付き添い	オンコー ル数	内搬送	入院数	カンファ レンス数	看取り
H26. 4月	242	242	29	2	5	1	3	12	3
5月	193	194	40	4	1	0	3	4	0
6月	259	260	29	7	3	0	2	9	0
7月	182	182	45	2	11	1	4	11	3
8月	196	205	43	0	6	1	5	5	1
9月	206	214	36	3	4	0	3	2	0
10月	265	273	39	0	20	0	4	10	0
11月	207	212	48	1	7	0	4	7	1
12月	111	117	66	0	11	2	4	11	0
H27. 1月	174	182	48	2	10	0	1	6	1
2月	194	204	45	0	30	1	3	11	0
3月	198	211	54	0	16	0	3	13	0
合計	2427	2496	522	21	124	6	39	101	9

【医療連携／入院件数（病院別）】

対象期間	入院先病院	件数
平成 26 年 4 月 ～ 平成 27 年 3 月	稲毛病院	26
	みつわ台病院	6
	高洲訪問クリニック	0
	千葉メディカル	1
	井上記念病院	1
	柏戸病院	1
	山王病院	1
	青葉病院	0
	千葉医療センター	2
	四街道徳洲会病院	1
合計	39	

【死亡退去者の状況】

死亡日	年齢	死因	看取り場所	施設看取り
平成 26 年 4 月 24 日	93	廃用症候群	稲毛こひつじ園	12 件目
平成 26 年 4 月 25 日	91	廃用症候群	稲毛こひつじ園	13 件目
平成 26 年 4 月 29 日	76	脱水、低栄養	稲毛こひつじ園	14 件目
平成 26 年 5 月 5 日	89	胆嚢癌	稲毛病院	
平成 26 年 5 月 14 日	82	肺炎	稲毛病院	
平成 26 年 6 月 11 日	88	肺炎	井上記念病院	
平成 26 年 7 月 1 日	96	廃用症候群	稲毛こひつじ園	15 件目
平成 26 年 7 月 9 日	92	廃用症候群	稲毛こひつじ園	16 件目
平成 26 年 7 月 17 日	83		みつわ台病院	
平成 26 年 7 月 20 日	87	廃用症候群	稲毛こひつじ園	17 件目
平成 26 年 8 月 2 日	93	慢性心不全	稲毛こひつじ園	18 件目
平成 26 年 8 月 15 日	85	呼吸不全	四街道徳州会病院	
平成 26 年 9 月 14 日	85	心肺停止	幸有会記念病院	
平成 26 年 11 月 25 日	96	老衰	稲毛こひつじ園	19 件目
平成 27 年 1 月 1 日	92	肺炎	山王病院	
平成 27 年 1 月 3 日	94	老衰	稲毛病院	
平成 27 年 1 月 20 日	98	老衰	稲毛こひつじ園	20 件目
平成 27 年 3 月 29 日	88	肝臓癌再発	医療センター	

【長期入院での退所者（施設復帰のメドが立たないため 退所）／その他】

退所日	年齢	病名	
平成 26 年 5 月 8 日	72	肺炎	総泉病院へ転院
平成 26 年 6 月 1 日	82	家族都合	幕張ケアセンターそよ風に転所
平成 26 年 6 月 24 日	90	肺炎	8 月 2 日 永眠（稲毛病院）
平成 26 年 7 月 26 日	96	肺炎	みつわ台病院
平成 26 年 8 月 30 日	71	経口摂取困難	稲毛病院（胃ろう造設）
平成 26 年 10 月 19 日	92	経口摂取困難	幸有会記念病院へ転院
平成 26 年 11 月 1 日	87	肺炎	稲毛病院
平成 27 年 3 月 9 日	95	肺炎・腎不全	稲毛病院

6-3 生活相談員部門

【目標】

- ・社会生活上の便宜の提供として介護保険に関する代行手続き、各種制度の提供を行う。
- ・余暇活動や生活支援にボランティアを活用し個別の対応、地域・公共施設などへの外出機会を作り社会生活への参加の場を提供し、在宅での生活と同じような生活を送るように支援していく。
- ・入居待機者の状況把握を徹底し円滑な入退所が行えるようにし、稼働率の向上に貢献する。
- ・入居者及びご家族との相談、日々の状況報告を行い協力体制の確保に努める。
- ・医療機関との連絡調整を密接に行い、入居者の生活が安心して送れるよう援助していく。
- ・透析患者の受け入れや看取り介護の導入により、各部署連携し安心して生活が送れるようにしていく。

【施策・評価】

1. 入居稼働率の維持（99.8%）空床時のショート利用

今年度の入居稼働率は累計99.9%と目標を達成することができた。

在宅で特養の入居希望者をまずショートステイで受け入れることで、利用者の状態把握と空きベッドの解消による稼働率の向上を図っていく。

2. 看取り介護の定着、認知症利用者の受け入れ

看取りについては、入所契約時に家族へ意向確認を行っている。看取り期に入ったと嘱託医から診断ができれば再度家族へ意向確認し、定期的なカンファレンスを開催するという一連のシステムを確立できた。こひつじ園の看取りは施設職員と家族とが協力して行うものであるという理解を、看取りを希望された各家族から得ることができ、家族参加のカンファレンスが毎回実施出来た。

認知症利用者の受け入れについては、認知症に対する専門的な研修には参加できなかった。介護力向上の研修のなかでは、水分摂取量の増加と、運動の機会を設けることが認知症状の軽減につながるとの提言があり、その理論に基づき対応していく。

3. 地域活動の参加・社会資源の活用

夏祭り際には、近隣自治会との共催という形で出店の応援などに協力してもらった。

ボランティアでは、週1回定期的に話し相手になる方が特養1名、デイサービス1名おり、今後も継続して関わってもらうよう支援していく。

ショッピングセンターへの買い物やレストランでの食事会など毎月外出する機会を作り地域との関わりを持つことができた。

4. 法人内外・関係医療機関・他福祉施設との協力関係の強化

発熱などの家族の緊急時対応が難しいケースは、高洲訪問クリニックで診察してもらい、スムーズな受け入れ体制をとることができた。

新たに斉藤労災病院の医療連携室と関わる機会が得られた。

今年度は実習生の受け依頼はなかった。

5. 入居者・家族との信頼関係の構築

今年度は3件の苦情があり、内容は入居者家族との状態報告の伝達不足、接遇に関するものであった。

特に新規入居者の家族に対しては、家族の協力を求める部分とこひつじ園で対応する部分との説明を行い、共通理解を得ることで信頼関係を作っていく。

【介護保険者別入所者状況】

()内は平成25年度

	保険者	地区	在籍	申込	優先入居
千葉	千葉市	稲毛区	44 (39)	95 (95)	14 (19)
		中央区	12 (16)	21 (26)	6 (13)
		花見川	5 (8)	16 (19)	2 (6)
		若葉区	14 (12)	33 (26)	4 (12)
		緑区	0 (1)	2 (1)	0 (0)
		美浜区	8 (7)	19 (9)	5 (4)
他	他		7 (7)	29 (28)	3 (16)
計			90 (90)	215 (204)	34 (70)

【待機者状況】

	期首	期末	新規	取消	入所
性別計	204	215	63	26	27
男	74	75	21	12	8
女	130	140	43	14	19
自宅	85	97			
GH	13	5			
HP	36	33			
老健	32	37			
特養	1	0			
他	37	43			

【月別入所状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初	89	90	90	90	90	89	90	90	90	90	90	90	
入所	5	3	3	5	2	1	1	2	0	3	0	2	27
退所	4	3	3	5	3	0	1	2	0	3	0	2	26
月末	90	90	90	90	89	90	90	90	90	90	90	90	

【稼働率】

	実績	稼働率	累計稼働率	前年実績	前年対比
4月	2,689	99.6%	99.6%	2,688	100.0%
5月	2,788	99.9%	99.8%	2,787	100.0%
6月	2,699	99.9%	99.8%	2,696	100.1%
7月	2,788	99.9%	99.9%	2,790	99.9%
8月	2,787	99.9%	99.9%	2,786	100.0%
9月	2,700	100.0%	99.9%	2,698	100.1%

10月	2,790	100.0%	99.9%	2,789	100.0%
11月	2,699	99.9%	99.9%	2,698	100.0%
12月	2,790	100.0%	99.9%	2,789	100.0%
1月	2,783	99.7%	99.9%	2,789	99.8%
2月	2,520	100.0%	99.9%	2,517	100.1%
3月	2,788	99.9%	99.9%	2,787	100.0%
計	32,821			32,814	
平均	2,735.0			2,734.5	

【年齢状況】

()内は平成25年度

区分	男	女	計(人)
55歳から59歳	0	0	0
60歳から64歳	0	0	0
65歳から69歳	1 (1)	2 (1)	3 (2)
70歳から74歳	2 (1)	3 (5)	5 (6)
75歳から79歳	0 (0)	6 (8)	6 (8)
80歳から84歳	2 (4)	9 (11)	11 (15)
85歳から89歳	7 (5)	16 (15)	23 (20)
90歳から94歳	2 (1)	19 (21)	21 (22)
95歳から	2 (0)	19 (17)	21 (17)
計	16 (12)	74 (78)	90 (90)
平均年齢	85.5	88.4	87.9(86.3)

【介護度別状況】

()内は平成25年度

介護度	男	女	計(人)
1	1 (1)	2 (3)	3 (4)
2	0 (0)	3 (9)	3 (9)
3	4 (4)	22 (19)	26 (23)
4	9 (5)	35 (32)	44 (37)
5	2 (2)	12 (14)	14 (16)
合計	16 (12)	74 (78)	90 (90)
平均介護度	3.68 (3.58)	3.70 (3.45)	3.70 (3.54)

【階層別状況】

()内は平成25年度

階層別	男	女	計(人)
第1段階	0 (0)	0 (0)	0 (0)
第2段階	2 (3)	41 (49)	43 (52)
第3段階	7 (2)	14 (13)	21 (15)
第4段階	7 (7)	19 (16)	26 (23)
計	16 (12)	74 (78)	90 (90)

6-4 介護支援専門員部門

【目標】

1. 価値観の尊重
2. 家族との情報共有、身体状況の把握及び家族の意向確認
3. 情報収集と活用
4. 利用者・家族との信頼関係を築く
5. 施設サービス計画、業務の適正な遂行について
6. 看取りケアプランの作成と定期的な看取りカンファレンスの実施

【施策・評価】

1. 価値観の尊重

各利用者個人の想いの聞き取りや表情等から想いを汲み取り、本人の意向に沿ったプラン作成に努めた。又、看取り期対応の方については、最期の時期を穏やかに心暖かく過ごしていけるよう、家族や各部署を含め定期的（7～10日に1回）に看取りカンファレンスを実施し対応する事ができた。

2. 家族との情報共有、身体状況の把握及び家族の意向確認

- 1) 家族面会の際は適宜、様子報告を行い情報の共有を図った。必要に応じて家族の協力を得ながら、本人の意向に沿った支援が遂行できるよう努めた。
- 2) 担当者会議の際は、できるだけ家族の出席を依頼し各部署を含めた情報共有を図った。特に新規入居になった入居者には、家族参加の担当者会議を行うことが出来た。

3. 情報収集と活用

- 1) 適宜、ユニット訪問にて本人や介護職員からの情報収集を行なった。医務・栄養士とも情報の共有を図り、各利用者の状態や様子を知る為の情報収集を行った。
- 2) ワイズマンで食事・排泄・バイタルの状況が一目で把握できるようになり、家族からも分かりやすいとの評価を得た。
- 3) 訪問系サービスの歯科・マッサージ・理美容・アロマ・カイロプラクティックの利用について各家族に周知し利用の促進を図ることができた。

4. 利用者・家族との信頼関係を築く

各利用者の変調や状況の変化については、迅速に家族へ電話連絡又はメールでの報告を行い、その都度専門用語等は使わずわかりやすい言葉での説明を実施。家族の理解に努めた。又、ケアプラン等の書類の説明においても、専門用語は使わずにできるだけわかりやすい言葉で記載。利用者及び家族へ誤解なく理解しやすい表現で説明を実施した。

5. 施設サービス計画、業務の適正な遂行について

更新期間はほぼ遵守できたが、アセスメントやフェースシートの適宜更新が出来なかった。要介護度の更新申請は滞りなく実施できた。認定調査についても依頼された件案は一度も断らずに実施した。

6. 看取りケアプランの作成と定期的な看取りカンファレンスの実施

嘱託医の看取り診断を受けて看取りケアプランを作成し、カンファレンスを実施した。看取りカンファレンスについては、7～10日又は必要に応じて7日以内に看取りカンファレンスを実施し、最期に向けて御家族・各部署と情報を共有し連携を図る事ができた。

【ケアプランの立案数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通常	22	15	20	18	17	13	23	16	15	13	17	17	206
看取り	3	1	3	1	1	0	2	5	2	6	3	2	29

【カンファレンスの実施数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通常	3	5	6	4	7	7	5	4	4	2	10	3	60
看取り	7	1	5	1	0	0	4	7	4	9	10	8	56

6-5 栄養部門

【目標】

『食』環境を充実させることにより、入居者・利用者の心身が健やかに保てるよう支援していく。

1. 食事内容の向上
2. 『食』環境の充実化

【施策・評価】

I. 食の選択肢の多様化と味の向上

- ① 委託会社と施設栄養士で週1回、話し合いの機会を設け、見直しをはかる。
- ② 特養（ユニット）で『主菜セレクト食』の実施。
- ③ 月1回開催『おやつバイキング』の実施。
- ④ 月1回『給食運営会議』を開催、施設・委託会社との話し合いの場を設け利用者のニーズに対応出来る体制を構築していく。
- ⑤ 委託業者の検討を行う。
- ⑥ 新規メニューの試食検討会を実施する。
- ⑦ リクエストメニュー等入居者の嗜好に合致した内容の実施。

⇒⑥、⑦は給食委託会社との調整つかず、未実施

II. 配膳方法の検討

- ① 食器の充実化を図るため使用食器の見直しを行い、視覚効果をめざす。
⇒使用食器をメラミンから瀬戸食器の変更を検討。大きさ等については提案済。
26年度内に購入には至らず。
- ② 利用者の生活リズムに合った配膳方法の検討。
⇒担当者会議が実施された利用者には検討するも、全員には実施できていない。
- ③ 配膳方式の移行検討（現行の中央配膳方式からユニット配膳方式等）
⇒ユニットにて副菜盛り付けを1階フロアで実施の話調整するも、実施までには至らず。

III その他

- ① 各部署との連携を図り、褥瘡・低栄養の入居者の早期発見・早急な対応を行い、入居者の状態に合わせた食事提供を行っていく。
- ② 褥瘡委員会により、各部署との情報の共有を行い、改善・予防の取り組みを行う。
- ③ スクリーニング・アセスメントを実施し、入居者の栄養状態の把握に努め、安定した生活が行えるよう支援していく。
⇒毎月実施のスクリーニング（全員実施）・状況確認会議を基に、適切な対応を行えるよう各部署との連携を取っている。
- ④ 近隣住民に対する高齢者の食に関する講習会等を実施し、地域特性を生かす。
⇒実施できていない
- ⑤ 職員に対して、食に関する研修会を開催し、高齢者に対する食の知識を増やし高齢者介護の質を高める。
⇒平成26年7月に食中毒防止とサンファイバーの使用について職員研修を実施。
- ⑥ 『ランチバイキング』年2回 デイサービス
⇒未実施。かわりに11月開園記念日に手巻き寿司を実施。

【介護老人福祉施設食数】

月	特養				ショート			
	朝	昼	おやつ	夕	朝	昼	おやつ	夕
総数	31,582	31,083	30,457	31,360	5,911	6,445	5,907	5,947
月平均	2,632	2,590	2,538	2,613	493	537	492	496
日平均	86.5	85.2	83.4	85.9	16.2	17.7	16.2	16.3

【通所介護食数（セレクト実施内容）】

月	合計	行事食	おやつ	肉系		魚系		その他（丼物・カレー等含む）	
				A食	B食	A食	B食	A食	B食
総数	7807	25	7570	105	103	128	115	49	63
月平均	651	2	631	9	9	11	10	4	5

【栄養ケアマネジメント（リスク）】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数	月平均
総数	87	86	88	88	87	88	87	87	86	89	87	90	1050	88
低	33	30	28	32	32	33	31	34	86	89	87	90	379	32
中	49	51	52	51	52	52	52	48	47	47	57	60	618	52
高	5	5	8	5	3	3	4	5	5	5	3	2	53	4

【行事食の状況】

月	日	行事名	行事食
4	1	イベント食	花見弁当
	10		おやつバイキング（特養・ショート・デイ）
	26	イベント食	サンドイッチランチ
	29	昭和の日	ロールケーキ
5	5	イベント食	端午の節句 おやつ⇒柏もち
	10		おやつバイキング（デイ）
	15		おやつバイキング（特養・ショート）
	18	主菜セレクト（昼食）	1-2 実施
	29	郷土料理	三重県料理
6	14	イベント食	入梅メニュー
	18	手作りおやつ（デイ）	ケーキデコレーション
	12		おやつバイキング（特養・ショート）
	25		おやつバイキング（デイ）
	22	主菜セレクト（昼食）	1-3 実施
	28	郷土料理	大阪料理
7	7	イベント食	七夕そうめん
	17		おやつバイキング（特養・ショート）
	26		おやつバイキング（デイ）
	29	土用の丑の日	うなぎ散らし寿司
8	3	主菜セレクト（昼食）	2-1、2-2 実施
	15		主菜セレクト（特養・ショート）
	20	イベント食	涼風膳
	21		おやつバイキング（特養・ショート）
	23		おやつバイキング（デイ）
	30	郷土料理	香川県料理
9	15	敬老の日	祝い膳、おやつ⇒生どら焼
	18		おやつバイキング（特養・ショート）
	22	敬老会	松花堂弁当、おやつ⇒京菓子（特養・ショート）

9	20		おやつバイキング (デイ)
	25		モンブランケーキ
	27	郷土料理	京都料理
10	12	主菜セレクト (昼食)	2-6 実施
	13	イベント食	体育の日メニュー
	16		鯛焼き実演
	24		さんま塩焼き実演・おやつ⇒炭火焼き芋
	25	イベント食	秋の味覚御膳
	31		お誕生日会用ケーキ (デイ)
11	1	イベント食	施設創立記念日 (手巻き寿司・デイのみ)
	15	イベント食	文化祭 (にぎり寿司)
	20		おやつバイキング (特養・ショート)・
	26		おやつバイキング (デイ)
	30	主菜セレクト (昼食)	2-3、2-5 実施
12	14		ねぎとろ丼
	22	冬至	南瓜の甘煮
	24	イベント食	クリスマス (ローストチキン)
	25	クリスマス	チョコレートケーキ
	26	餅つき	おやつ⇒お汁粉
	31		年越しそば
1	1	元旦	正月料理 (朝・夕)
	7		七草粥 (朝)
	10	イベント食	松花堂弁当
	15		バケツプリン (特養・ショート)
	30		バケツプリン (デイ)
	31	郷土料理	佐賀料理
2	3	イベント食	節分の日メニュー (恵方巻・卵巻寿司)
	14	バレンタイン	おやつ⇒チョコレートケーキ
	22	主菜セレクト (昼食)	3-1、3-2 実施
	24		お誕生日会用ケーキ (デイ)
	28	郷土料理	秋田料理
3	3	イベント食	雛祭りメニュー
	19		おやつバイキング (特養・ショート)
	28	郷土料理	愛媛料理
	29	主菜セレクト (昼食)	3-3、3-5 実施
	31		おやつバイキング (デイ)

【嗜好調査結果】

〔期間〕 平成 26 年 4 月 1 日（火）～10 日（木）

〔方法〕 聞き取り

〔対象者〕 特養入所者 88 名（胃瘻造設者は対象外）

回答 61 名（一部質問についての回答者含む） 聞き取り不可 24 名

（※認知症等での会話不成立・体調不良のため、聞き取り不可）

入院 3 名

〔総評〕

今回の調査では「炊飯の炊き加減のむら・主食が冷めている・味付けが薄い」とのコメントが多く、一番気になる場所であった。今後、改善にむけてとりくんでいきたい。また、利用者の炊事参加については、利用者は職員にやってもらう事に慣れてしまっている印象を受けた。「自分で出来ることはしていただく」姿勢を職員も利用者も意識することが重要ではないかと感じた。

7. 居宅サービス課

7-1 短期入所生活介護部門

【目 標】

1. 利用者が可能な限りその有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・排泄・食事等の介護・相談及び援助・日常生活上の世話・レクリエーション・健康管理及び介護サービスを提供します。
2. デイサービス・居宅介護支援事業所・施設サービス課との連携を図り、定期的な会議を開催することにより、より良いサービスの提供が図れるようにしていきます。

【施策・評価】

- ・サービス担当者会議での積極的な意見交換や、多職種によるカンファレンスの実施によりご利用者の情報の共有に努め、利用者・家族・ケアマネジャーとの信頼関係を築く事ができた。
- ・特養入居者の長期入院に伴う居室を迅速な対応で空床利用することにより、目標の稼働率 100%を超えることができた。
- ・前年度を上回る数の行事を計画・実施することができ、利用者の満足感を得られたと同時に QC 活動（テーマ：行事）の実施により、一步踏み込んだ行事計画を行うと共に、職員も目的をもって取り組むことが出来、チームワークを強めることが事ができた。
- ・各職員が利用者の様子を利用報告書に細かく記入することを心がけることにより、家族と情報の共有が出来、信頼関係を築く一つの要因となりました。また、利用報告書を細かく記載することで、記載内容の正確性が増した。

【送迎エリア】

稲毛区 ・ 中央区 ・ 若葉区 ・ 美浜区 ・ 花見川区

【送迎実施地域】

区	町
稲毛区	長沼町 小仲台 園生町 天台 穴川 小中台 作草部 萩台町 柏台 宮野木町 黒砂 弥生町 轟町 稲毛町 千草台
若葉区	若松町 都賀の台 若松台 貝塚町
中央区	中央 春日 東千葉 登戸 弁天
美浜区	高洲 真砂 幸町
花見川区	朝日が丘 さつきが丘 作新台 畑町

【要介護度別利用状況】

() 内は平成25年度

介護度	男	女	計
要支援1		0 (1)	0 (1)
要支援2		1 (1)	1 (1)
要介護度1	2 (1)	3 (3)	5 (4)
要介護度2	3 (2)	9 (16)	12 (18)
要介護度3	1 (3)	11 (5)	12 (8)
要介護度4	2 (0)	13 (13)	15 (13)
要介護度5	2 (0)	5 (13)	7 (13)
計	10	42	52

【年齢別利用状況】

() 内は平成25年度

年齢	男	女	計
60～64			
65～69	0 (1)	1 (3)	1 (4)
70～74	2 (4)	2 (0)	4 (4)
75～79	2 (1)	3 (5)	5 (6)
80～84	0 (1)	4 (5)	4 (6)
85～89	5 (0)	13 (11)	18 (11)
90～94	1 (1)	9 (9)	10 (10)
95～	2 (2)	8 (9)	10 (11)
計	12 (10)	40 (42)	52 (52)

【稼働率】

月	実績	稼働率	累計稼働率
4月	555	102.8%	102.8%
5月	557	99.8%	101.3%
6月	559	103.5%	102.0%
7月	587	105.2%	102.8%
8月	565	101.3%	102.5%
9月	562	104.1%	102.8%

10月	586	105.0%	103.1%
11月	570	105.6%	103.4%
12月	589	105.6%	103.6%
1月	577	103.4%	103.6%
2月	504	100.0%	103.3%
3月	577	103.4%	103.3%
計	6,788		

【新規契約数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期	
男	1人		2人		3人	2人	1人	
女	1人	4人	1人	2人		2人	1人	
計	2人	4人	3人	2人	3人	4人	2人	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	半期	年間
男		1人	2人					12人
女	4人	1人		4人		2人	4人	26人
計	4人	2人	2人	4人	0人	2人	4人	38人

【行事】

月	内容
4月	お花見（スポーツセンター）、買い物・回転寿司ツアー
7月	納涼祭、おやつ作り（ピザ）
8月	おやつ作り（かき氷）
9月	敬老会、流しそうめん、買い物・回転寿司ツアー
11月	買い物・食事ツアー（フレスポ稲毛・海鮮三崎港）
12月	クリスマス会、ちゃんこ鍋、 忘年会（夕食後、菓子・アルコール・ジュース提供）
1月	宅配弁当（釜飯）
2月	節分、おやつ作り（たこ焼き・ホットケーキ）、買い物ツアー
3月	餃子・ケーキ作り

7-2 通所介護部門

【目標】

1. 利用者の思いを尊重した、ハンドメイド・デイサービス
年間稼働率90%越えを目指すために、サービスの質を向上する。
2. 外部ボランティア等を積極的に受け入れ、風通しの良いデイサービス
新たに個別レクリエーションとして活用できるボランティアを開拓する。
3. 近隣地域（稲毛区・若葉区一部）のために、地域と共に築くデイサービス
利用者・家族・居宅介護支援事業所等との連携を密にしていく。

【施策・評価】

年間稼働率目標を下回ったが、外部ボランティアの受入れを積極的に実施し、新たに【 三味線 】 【 落語 】 【 カラオケ 】 のボランティア参加を誘致できた。
 外出行事や施設内行事を実施することにより 利用者・家族・居宅事業所とのコミュニケーションを増加させることによる連携を強くすることが出来た。

【年齢の状況】

H27.3/31 現在

年齢	男	女	計
50～59	2	0	2
60～69	4	1	5
70～79	11	9	20
80～89	16	42	58
90～	5	23	28
合計	38	75	113
最高年齢	102	102	102
最低年齢	51	66	58.5
平均年齢	76.5	84	80.25

【介護度内訳】

H27.3/31 現在

区分	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
人数	2	3	25	15	16	13	5	79

【終了理由】

区分	入所	転居	入院	死亡	本人希望	家族希望	お断り	計
人数	11	0	7	9	2	5	0	34

【新規利用】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	3	2	2	1	2	2	5	4	2	1	3	7	34

【月間利用状況 延べ人数】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	24	24	26	310	25.83
要支援	4	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	69	
要介護	72	72	75	74	72	71	70	78	72	70	71	74	871	
月合計	675	703	676	757	687	610	689	694	685	651	614	671	8112	676
稼働率	86.7	86.8	90.1	93.5	84.8	81.3	85.1	89	87.8	90.4	85.3	85.9		87.23

【キャンセル数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	24	24	26	310	25.83
予定数	804	819	801	841	843	751	830	809	820	753	757	821	9649	31.12
キャンセル数	153	139	145	137	193	166	178	152	171	141	182	186	1943	6.26
キャンセル率	19.0	16.9	18.1	16.2	22.8	22.1	21.4	18.7	20.8	18.7	24.0	22.6	20.15	

【新規ボランティア受入れ状況】

開始月	受入日	団体名：内容
4月～	第3月曜日	個人：カレンダー色塗り・編み物
6月～	毎月末	さくら会：三味線歌唱
9月～	不定期	フォーユー・アンサンブル：マンドリン演奏
1月～	不定期	個人：落語を聴く会
3月～	毎月第2・4水曜日	個人：カラオケ道場

【行事】

	内 容	入 浴
4月	お花見（スポーツセンター）いちご狩り（ドラゴンファーム） ・しおり作り	桜の湯
5月	買い物（ダイエー・フレスポ稲毛）・外食（八葉） ・芸術鑑賞会	菖蒲の湯
6月	七夕短冊作り・外食（はま寿司）	ラベンダー湯
7月	買い物（ダイソー）外食（とんでん幸町・太陽楼）	海の湯
8月	買い物（ワズモール）・スイカ割り・外出（プラネタリウム） ・外食（奈のは）	アロエの湯

9月	外食・買い物ツアー（イトーヨーカドー・ポポラマーマ） パンケーキ作り	ぶどうの湯
10月	外食（とんでん東寺山）	秋の夜長湯
11月	紅葉を見に行こうようツアー（青葉の森公園・ココス） ・映画鑑賞会	りんごの湯
12月	買い物ツアー（イオン稲毛）・外食（奈のは）	ゆずの湯
1月	新春！落語を聴く会・初詣（千葉神社）	みかんの湯
2月	節分（豆まき）・外出（プラネタリウム）・買い物（イオン稲毛） 外食（八葉）	ヒノキの湯
3月	外食（とんでん東寺山）	桃の湯
毎月	俳句の会・誕生会（手作りおやつ・バイキング）・萩の会（日本舞踊） ・ハーモニカ演奏・音楽ボラ・絵手紙教室・ゆる体操	

7-3 居宅介護支援センター部門

【目標】

1. 新規受け入れ
2. 法令遵守し、安定した運営をする

【施策・評価】

1. 新規受け入れ
 - ①あんしんセンター及び直接利用者家族からの依頼を中心に新規受け入れを行った。
目標実績件数 85件/月 ⇒ 65.25件/月
4月～10月 3人対応 11月～3月 2人対応
年度末延べ件数 1020件 ⇒ 798.5件 稼働率97.1% ⇒ 78.85%
介護予防支援 利用者数 10件/月 合計 61件 平均 5.1件/月
 - ②職員の産休に伴い11月より2人体制となる。
こひつじ園居宅へ移管 ⇒ 要介護 7件 要支援 2件
他事業所へ移管 ⇒ 要介護 16件 要支援 1件
新規受け入れは随時対応したが、件数制限があるため年度末は断ったケースもあった。
2. 法令遵守し、安定した運営をする
平成25年11月～平成26年10月まで、加算に対する過誤があり過誤申し立てを行った。
3. 要介護認定調査委託事業
目標 5件/月 年度末延べ件数 60件
業務に支障のない範囲で対応した。 12件/年 月平均1件
平成26年度千葉市認定調査員現任研修に2名参加し、特記事項の書き方等の指導を受ける。
4. 職員の資質向上のための研修
稲毛区 あんしんケアセンター（包括支援センター）主催の研修に参加。
主任介護支援専門員対象、千葉県高齢者虐待防止対応策研修に参加。

5. 関係機関との連携

地域包括（あんしんセンター）との連携を図り、新規利用者の受入れを行った。

地域包括支援センター 天台主催のアートセラピー（広告を貼ったり色を塗って絵にすることで、今の心理状態がわかる）に参加し、包括支援センターの職員や他事業所の職員との交流を図ることができた。

困難事例や虐待ケースは、地域包括支援センターや行政と連携し対応した。

稲毛区主任介護支援専門員連絡会に参加し、稲毛区の包括支援センターや他事業所の主任介護支援専門員との連携を図ると共に、新人介護支援専門員の育成に協力した。

病院や診療所との連携。退院時に病院のソーシャルワーカーとの連携に努めた。

サービス事業所との連携を密にし、情報の共有を図った。

高洲訪問クリニックより3名の利用者の受け入れを行った。

6. 地域とのつながり

民生委員との連携を図った。

施設行事の夏祭りは近隣自治会との共催で行った。

7. 法人内他事業所との連携

デイサービス・ショートステイ・特養と連携を図り、スムーズに対応することができた。

【稼働率】

	要介護	要支援	新規	終了	稼働率 (%)
4月	64	5	1	4	79.3
5月	67	5	1	4	69.3
6月	67	6	6	3	71.8
7月	72	6	5	4	77.0
8月	76	5	4	4	81.0
9月	70	6	5	1	69.0
10月	72	6	3	17	71.4
11月	54	5	1	0	85.6
12月	54	5	2	3	85.2
1月	60	5	6	7	99.5
2月	55	4	0	3	89.0
3月	53	4	2	2	86.9
計	764	62	36	52	

【認定調査】

	委託自治体	実施場所
4月	流山市	サニーライフ西千葉
5月	若葉区	特養 プラタナス
6月		
7月	稲毛区	小規模多機能 せらび稲毛
8月		

9月	浜松市 若葉区	特養 ソレイユ千葉北 有料 イリーゼ黒砂
10月	稲毛区 若葉区	GH サロンドグリーン長沼原 有料 ラ・ナシカこぶけ
11月		
12月	四街道市	有料 ラ・ナシカこぶけ
1月	四街道市	有料 サンスマイル稲毛
2月		
3月	四街道市 若葉区	有料 ここち稲毛 老健 アーバンケアセンター 有料 アシステッドリビング稲毛

【研修】

	研 修	会 議 (他)
4月		稲毛区ケアマネ連絡会 アートセラピー
5月		アートセラピー
6月		アートセラピー
7月	スーパービジョン勉強会	
8月		アートセラピー
9月	介護保険の最新情報について	
10月		稲毛区ケアマネ連絡会
11月	認定調査員現任研修	
12月		稲毛区ケアマネ連絡会 アートセラピー
1月		
2月	地域包括ケアシステムの構築	稲毛区ケアマネ連絡会
3月	千葉県高齢者虐待防止対応策 事例検討会	アートセラピー

8. 事務課 事務部門

【目 標】

1. 中期・長期目標の策定
2. ユニット毎の豊かな生活支援
3. 人材育成
4. 給与 職位体系・福利厚生
5. 新規サービス等の提案

【施策・評価】

1. 中期・長期目標の策定

1) 新事業計画の立案

隣接職員駐車場における新規介護事業の計画立案、中長期計画における介護施設等の計画立案は千葉市への立候補を行ったが諸般の事情により平成26年度は断念した平成27年度への引継事項となった。

2) 開設対応（施設設備の調整・管理、人材採用等）

昨年11月にオープンした「ほっとスペース稲毛ペコリーノ」では、内装工事・事務用品・講師等の手配を含み予定通りの開講となった。

2. ユニット毎の豊かな生活支援

1) 個別ケア・認知症対応備品等の情報収集

ユニットケアにおける個別ケアを実施するために必要な備品什器の情報を収集し、購入に必要とされるものを検討して積極的に取り入れた。

2) 新規サービス等の提案

「地域にとって必要な介護保険以外のサービス」について地域自治体協力の下、地域住民へアンケートをおこなった。

本当に必要なサービスを念頭において集計結果をまとめて今後着手していく。

3) 家族とのチームケアのための家族への情報提供等

家族との懇親会が本年度は開催に至らなかったため、計画的に時期を決めて開催できるようにしたい。

また、広報委員会を新設したため、今までとは違う視点で情報提供をしていく。

4) 導入した療法の充実と参加促進（運動・動物・音楽等）

健康体操、アロマセラピー、動物との触れ合い等、認知症の予防と生活の活性化を図るサービスについて研究するとともに利用者の生活の質（QOL）の向上に努めた。

3. 人材育成

各部署の目標の明確化と意欲高揚のために、施設でのQC活動の推進をおこない、その活動による表彰を年度末におこなった。

新たに設けた「奨励金制度」を活用し、職員の資格取得支援を推進した。

また、職員の職務に対する研究や改善意欲を充実させるため、事業所内外の研修や実習に積極的に参加し、入職時期に関係なくキャリアアップを図った。

昨年11月よりオープンした「ほっとスペース・稲毛ペコリーノ」を通して在籍職員の介護技術向上を取り入れていった。

4. 給与 職位体系・福利厚生

1) グループ全体のスケールメリット

一部グループ間での交流はあったが、全体との人的交流が持っていないため、今後の課題とした。

2) 法人への貢献度を反映した体系づくり

給与規程改定をおこない、職員に対して還元をおこなった。

- ①役職手当の段階化（経験等により段階を設定）
- ②資格手当の複数適応（主資格に加え、従資格を追加し資格手当の支給を充足）

5. 新規サービス等の提案

- 1) 職員の福利厚生等を含め、法人の収益増の見込める新規サービスを提案する。
- 2) コスト対効果（費用対効果）をクリアするとともに、職員に対する主旨説明等を事前に行い、職員の納得性を高め導入効果をより高いものとする。
- 3) 重度認知症に対応する事業を検討し、方向性を見出す。
※1) から3) は共に着手することなく終わってしまい、今後の課題とした。
- 4) 隣接駐車場における 新規介護事業を開設する。
新規プロジェクトチームに参画し、隣接駐車場の有効活用と社会福祉法人としての新規事業計画に貢献するとし、平成26年度千葉市の公募に参加し計画を行なったが、隣接市街化調整区域の開発に係る時間的余裕がなく、断念した。
平成27年度の千葉市福祉計画が発表後、速やかに計画立案に着手する予定。

5) 新規採用計画

外国人就労者（EPA候補生）の受入体制を整え、新設された「ほっとスペース稲毛ペコリーノ」を通じ、受講修了者の採用をおこなった。

また、通年よりも早く学校訪問をおこない新卒の確保に努め、一般求職者に対しては、1名からでも施設内見学をおこない、こひつじ会グループの活動内容、雇用条件の説明などをおこなうことにより、入職率が上がったため、今後も継続していきたい。

9. ほっとスペース 稲毛ペコリーノ部門

【目 標】

- 1. 介護職員初任者研修 開講
- 2. 学習支援事業

【施策・評価】

1. 活動内容

- 1) 介護職員初任者研修 開講（4クラス）

千葉市内を中心に、八千代市・四街道市・佐倉市の一部への広報活動のほか、小仲台自治会への加入。

※広報－福祉施設訪問、DM 郵送、折込、駅前チラシ配布などを実施。

※修了生24名のうち10名が他法人からの紹介、8名は千葉市以外からの通学。

※高校生クラスについては、セントケア千葉より新卒社員を紹介してもらう。

【受講状況】

クラス	受講期間	受講生数
火木金曜クラス	26.11月～27.3月	6名
月曜クラス	26.11月～27.3月	8名
土曜クラス	26.11月～27.3月	6名
高校生クラス	27.2月～27.3月	4名
修了生 合計		24名

○振り返り

広報期間が短く初めての開講だったが「実績づくり」も含め、授業に差し支えない受講生数であった為、予定通り開講した。

修了後は「介護に対する理解が深まった」などの意見を頂いたが、外部講師との連携を密にするとともに演習方法の統一を図るなど打合せを重ね、更に授業の質を高めていく。

また、修了生の中には「(当校で)実務者研修を受けたい」という声もあった。

修了生には定期的に情報配信を行ない繋がりを継続することで、こひつじ園での就労を促していく。

2) 学習支援事業の開始

地域貢献事業の一つとして3月より開始。

対象：施設職員の子、及び通学できる地域の小学生～高校生が対象。

先生：千葉大学の現役学生2名を採用。(男女1名ずつ)

【受講状況】

クラス	学習曜日・時間	児童・生徒数
小学生	金曜日 16:00～18:00	1名(5年生)
中学生	金曜日 18:00～20:00	0名
高校生	土曜日 10:00～12:00	1名(4/18より)

○振り返り

27年度に広報活動を展開(小仲台自治会や福祉センター他、当校修了生や在校生など)園内チラシなどを通じて職員にも周知し、生活環境のサポートを行い、就労への後押しをする。受講生からは、「近くにあったら利用したい」という声もあり、当事業に対する理解は深いと思うので、地域貢献活動の一つとして当事業の広報を通じてペコリーノ(初穂会)の認知度を向上させる。

また、保護者に介護講座への興味や希望があれば就労支援などを行ない、ペコリーノの他事業への取り組みを図りたいと思う。

10. 委員会

10-1 拘束廃止検討委員会

【目標】

稲毛こひつじ園は、指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準第11条第4項の「サービスの提供に当たっては、当該入居者または他の入居者等の生命または身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他入居者の行動を制限する行為を行ってはならない」事を受け、入居者の人権を尊重すると共に、日常生活のケアの充実に図り、「拘束をしない介護」「拘束0の施設」を目指す。

1. 拘束廃止に関する施設内研修会の開催（年2回開催）
 - ① 委員会委員が外部講習会に参加し、最新の情報を把握する
 - ② 年2回の講習会を2回に分け多くの職員が受講できるようにする
 - ③ 委員会にて施設内研修乃至外部研修受講者を指名する
2. 拘束廃止のための体制作り
拘束必要者に対して個別ケーススタディ
3. やむなく拘束を行なう場合の検討・廃止に向けた計画作成・実行管理

【施策・評価】

- ・拘束対象者0名
- ・外部講習会参加実施
- ・施設内研修はできなかった。
- ・適切なケアを目指すために不適切なケアが行われていないか介護職員を対象にアンケートを実施。アンケート結果を各ユニットに配布し職員の意識の向上をはかった。
- ・認知症の理解、環境整備などでの拘束予防の取り組みを行った。

10-2 安全対策委員会

【目標】

利用者の高齢化、重度化に伴い介護事故が利用者の全身状態に与える影響が大きい事を認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来る様研修を通じ習得を図る。介護事故の原因究明・防止策立案が重要であり、施設全体の組織的な対策推進こそが事故を防止し安心して介護サービスを受けられる環境を整備する。

1. 事故の把握、分析、防止策検討
 - ① 事故報告書のデータ分析を行うと共に、特徴ある案件及び繰り返し発生する案件について個別にスタディを行う。
 - ② 対象者・発生場所・発生時刻・対応職員に特徴がある場合には、個別分析を実施し原因を追究し防止策を講じる

2. 防止策の実践できる組織体制整備・構築
 - ①防止策を実践するハードについての情報収集を行う
 - ②防止策を実施するためのマニュアル作りを実施する。
3. 安全対策に関する研修会開催（年2回開催）
4. 新入職員、中途採用職員に対しての研修
5. マニュアル・帳票類の見直し及び作成

【施策・評価】

事故報告書・ヒヤリハットの分析により防止策を講じる事が出来た案件と繰り返したのもあり、原因追及が至っていなかった。

防止策実施に向けての動きが遅く、周知徹底が出来なかった。

施設内研修を行う事が出来たが、事故を受けての研修となってしまう反省点である。

○事故報告書

平成26年度は、年間764件の事故報告書が提出された。

発生場所別でみると居室内で発生している割合が31.8%共有スペースで19.6%更にベッド上11.5%を加えると事故の61.9%は居室と共有スペースで発生していることがわかる。

入居者・利用者のいる時間からみれば、居室・ベッド上・トイレは密室性が高く、入居者・利用者が一人である時間帯であり、職員の目の届かない時間帯である。

また、時間帯でみると

- ・朝食前7時から8時の間
- ・朝食後9時から12時及びおやつ前の2時から3時
- ・更に夕食後に事故が発生しやすい

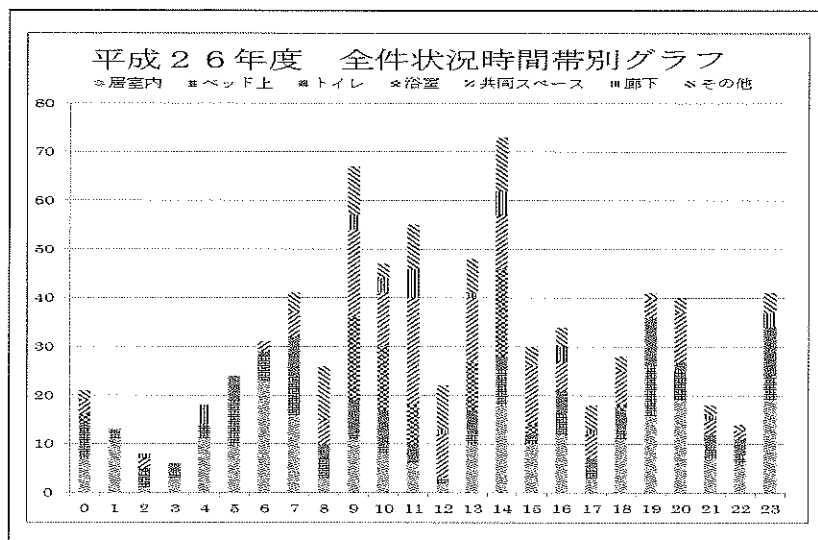
23時から24時に居室内（ベッド上を含む）に事故が発生しているが、これは入居者がベッドからのずり落ちや、トイレに起きて転倒などとなり、職員の巡回時等に発見している。

（平成25年度と同傾向）

【事故発生場所別時間別一覧表（うち転倒）】

時間帯	居室内	ベッド上	トイレ	浴室	共同スペース	廊下	その他	合計
合計	243 (64)	88 (1)	87 (14)	71	150 (22)	32 (10)	93 (7)	764 (118)
0 ～ 1	7 (4)	7		2	3		2 (1)	21 (5)
1 ～ 2	11 (5)	1	1					13 (5)
2 ～ 3	1	3	1		2 (1)	1		8 (1)
3 ～ 4	3 (2)	1	2 (1)					6 (3)
4 ～ 5	11 (2)	3				4 (2)		18 (4)
5 ～ 6	10 (2)	9	5 (1)					24 (3)
6 ～ 7	23 (4)	5	1		2			31 (4)
7 ～ 8	16 (4)	8	8 (2)		5		4	41 (6)
8 ～ 9	3	4	3		5		11	26
9 ～ 10	11 (2)	1	7 (1)	17	18	3	10 (1)	67 (4)
10 ～ 11	8 (2)	2	7	13	11 (2)	3	3	47 (4)
11 ～ 12	6 (2)		4 (1)	8	22 (4)	6 (1)	9	55 (8)
12 ～ 13	2	1			9 (1)	1	9 (1)	22 (2)
13 ～ 14	10 (2)	2	5 (1)	10	13 (1)	1 (1)	7 (1)	48 (6)
14 ～ 15	18 (7)	7	3 (1)	18	11 (2)	5 (2)	11 (2)	73 (14)
15 ～ 16	10 (2)	1	1	2	12 (3)		4	30 (5)
16 ～ 17	12 (2)	4	5		6 (2)	3 (1)	4	34 (5)
17 ～ 18	3 (1)	2	2		5	1	5	18 (1)
18 ～ 19	11 (2)	2	4 (1)	1	7 (1)		3	28 (4)
19 ～ 20	16 (5)	10	10 (3)		4 (2)	1 (1)	1	41 (11)
20 ～ 21	19 (6)	6 (1)	2		10 (3)	1 (1)	3	40 (11)
21 ～ 22	7 (1)	2	3		3	1	2	18 (1)
22 ～ 23	6 (2)	2	3		2		1	14 (2)
23 ～ 24	19 (5)	5	10 (2)			3 (1)	4 (1)	41 (9)

【全体状況時間帯別グラフ】



事故発生があると、相談員から家族（キーパーソン）に連絡し状況報告及び対応策を説明し承諾を得て実行している。

重要事項説明では、家族に来園を願いアセスメントを実施し家族を交えて対応を検討し実施している。

1. 転倒・転落（転倒128件 転落103件 合計231件 30.2%）

〔原因〕：介護職員が見守りをしていないときの転倒転落（特に居室、ベッド上・共同スペース）である。特に認知症を罹患している入居者に顕著であった。

〔対策・結果〕：入所者のADL等に合わせた対応を実施する。

個別対応により、特定入居者の発生回数は減ったが、施設のハード（ユニットケア）による個室対応という環境における完全防止は困難ではあるが、継続的課題として対策を検討している。

2. 誤嚥・誤食・異食（3件）

〔原因〕：認知症罹患患者での異食。共同スペースでの見守りの間に発生。

〔対策・結果〕：該当者の周辺に異食となるものを排除する。該当者の行動パターンのユニット職員への周知により、個別対応も行い発生回数は減っている。

3. 無断離棟（15件）

〔原因〕：入居者が歩行・自走可能である場合に、面会者のエレベーター利用時やセキュリティドアの開閉の際に、一緒に行動してしまうことを防げなかった。

事務所前での最終確認の防止策がとられていることにより大事故には至っていない。

〔対策・結果〕：面会者に注意の依頼、及びスタッフへの声掛けを依頼。上階からの離棟者は配膳使用時エレベーターに乗った結果であり、厨房業者への指示徹底によりその後の発生はない。但し1階からの場合は、職員以外は入居者の判断が困難であり、家族等の来園時に自動ドアからの離脱が発生している。

今後は来訪者への注意喚起だけでなく、システム面からの防止策も考慮していく必要がある。

4. 落薬・吐出し（落薬41件 吐出し3件）

〔原因〕：前年同様、認知症の入居者が職員の前で服薬してるが、職員の見守りが外れた時に吐出しや薬の廃棄がみられる。

〔対策・結果〕：当該対象者に対しての服薬後の嚥下確認を行い、口腔内確認を実施しているが他の入居者対応の為、その場からの離脱や見守りから外れる場合があり、その際の落薬・吐出しが発生している。

5. 服薬ミス（2件）

〔原因〕：本来服薬させる時間等に複数確認することなく、思い込みで配薬等を行っている。更に残薬確認漏れをしてしまう。

〔対策・結果〕：配薬する際の氏名及びタイミングの確認を行う。残薬確認を行う。

6. 外傷（296件）

〔原因〕：内出血等が多数であり実際の外傷はない。内出血の原因は特定できる場合が少なく、原因究明が困難な状況である。

〔対策・結果〕：入居者個々により内出血の発生しやすい体質及び服用薬剤を職員が認識し、体躯への接触等に留意した。特定入居者については減少傾向にある。

7. 接遇（6件）

〔原因〕：職員の対応、及び入居者同士の対応。

〔対策・結果〕：ユニット異動、及び家族に対して早めの対応を行ない減少した。

8・その他（136件）

〔原因〕：その他の分類に入る事項は、入居者の個人所有の食器類の破損・クリーニング事故・ショート利用者の忘れ物である。

これらの発生原因としては

①器類の破損：食器洗浄器取扱い、入居者自身等による食器の落下事故、食器手洗いの際の破損等である。

②クリーニング事故：入居者・利用者の水洗い不可製品の持込み。職員のクリーニング表示確認漏れ。氏名未記載等が揚げられる。

〔対策・結果〕：①については物品を丁寧に扱う、②は大型洗濯機での洗浄に耐えうる衣類の使用を家族に依頼することを継続して周知する。

10-3 感染症・食中毒におけるまん延防止委員会

【目標】

1. 利用者の高齢化・重度化に伴い、感染症・食中毒が利用者の全身状態に与える影響が大きいことを認識し、全職員が知識・技術を習得し適切で速やかな対応が出来るよう研修を通じ研鑽を図る。
2. 利用者が安心して生活出来る環境を作る。
3. 新入職員・中途採用職員に対する研修。
4. 感染症及び食中毒の予防蔓延防止のための研修会開催（年2回開催）
 - 1) 手洗い・ガウンテクニック等の実技研修
 - 2) 食中毒に関する研修
 - 3) 感染症（ノロ・インフルエンザ）に関する研修
5. マニュアルの見直し・作成
感染・食中毒発生時に修正・改善の見直しを実施し、マニュアルを更新する。
6. 感染症発生時の対応・記録・報告。
感染症発生時の記録を共有化し、次回の感染予防に対応・反映させる。

7. 感染症情報の提供（必要時）

官公庁等からの情報をモニタリングし 発信情報を随時公開していく。
更に最新の必要情報を入手し、職員への周知徹底を実施する。

【施策・評価】

- ・インフルエンザ、職員・入居者とも拡大せずに最小限に防げた。
- ・ノロウイルス発症ゼロ。
- ・12月開催のグループワーク（ガウンテクニック・ノロウイルス・インフルエンザ）の勉強会は人数も多く集められた。
- ・勉強会では、営繕や事務も参加し介護だけでなく、施設全体で感染対策について考えられた。
- ・来年度、冷蔵庫チェックを再開する。感染対策（出勤時の体温測定、湿度チェック等）を意識して行なっている職員と意識が低い職員の差があり、委員を中心にさらに全体への発信が必要である。
- ・デング熱対策をどうするか対応策を引き続き検討する。

10-4 褥瘡対策委員会

【目標】

入居者に対し、「生活の質と予防」に配慮した良質なサービスを提供すると共に、褥瘡が発生しないよう適切な介護・対策を行い、心身ともに穏やかな生活を送られるよう支援する。

- ①褥瘡予防を通し個別ケアへの理解度を深め、職員の資質の向上につなげる。
食事ケア・排泄ケア・体位変換技術等の介護力の向上を目指す。
- ②看取り介護において、入居者が穏やかな生活を送られるよう、各部署と連携し予防と対策を実施する。
- ③各部署との連携を充分に行い、褥瘡の予防と早期発見に努めるとともに、部署間を越えて職員が連携を図る。

【施策・評価】

〔褥瘡治療者〕 0名・・・目標達成
〔褥瘡予防ハイリスク対象者〕 5名以内・・・13名 未達成
〔低栄養ハイリスク対象者〕 5名以内・・・2名 目標達成

- ・褥瘡予防ハイリスク対象者人数目標未達成だが、皮膚のトラブル繰り返しの危険性がある為、予防の目的にて計画と評価を継続対応した。
- ・ハイリスク者の予防計画・実践・評価の実施ができた。
個別ケアに対し、体重評価・管理を行い、早期対策が行なえた。
- ・他部署と連携して、皮膚トラブルの早期発見・早期報告の対応ができた。
- ・施設内・外の研修が実施できなかった。
- ・皮膚トラブル繰り返し対象者の個別ケース分析が不徹底あった。来年度で重点目標として取り組む。
- ・電子記録により帳票類の作成及び見直しについて情報共有ができた。

10-5 防災委員会

【目標】

- ・防災に対する危機管理の策定
- ・災害時に備えた備品管理・点検
- ・日常生活における防災の備えに対する研修会の開催
- ・防災訓練の実施
- ・同時に施設内巡回を実施し、危険個所乃至注意箇所の点検改善を実施する。
- ・年2回の消防訓練・避難訓練を実施と同時に消防設備等の点検を実施する。

【施策・評価】

日中、及び夜間を想定した防災避難訓練を実施。

新規入職者に対して、防災設備の使用方法などの実演をおこなった。

非常災害時に即座に対応できるよう備品整備・確認をおこない、施設に設置されている家具類の確認、避難経路を巡視して予防対策をおこなった。

また、地域自治会と夜間防災パトロールに参加し、防災・防犯に対する意識を高めた。

10-6 衛生委員会

【目標】

労働災害防止の取り組みは労使が一体となって行う必要があるため、衛生委員会において、労働者の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などの重要事項について十分な調査審議を行う。

- 1) 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関する事。
- 2) 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事。
- 3) 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に関する事。
- 4) 前三号に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項。

【施策・評価】

- 1年を通じて、職員に対して健康障害の防止や、健康の保持増進を図るために活動してきた。
- 施設の巡視をおこなうことにより、職員に対して「働きやすい職場」を提供できるように今後も委員会で随時検討していくこととする。
- 本年度から始めた職員向けの「ラジオ体操」などは心身ともにリフレッシュできるため、継続していきたい。

10-7 介護力向上委員会

【目標】

平成26年度 介護力向上講習会（千葉市分校）の外部研修に年6回参加。
研修では認知症ケア理論・常食化理論を中心に、オムツゼロ特養目指し千葉市の老人施設15施設と事例検討や意見交換を行い科学的理論に基づく介護が展開出来る様に学んだ。

【施策・評価】

- ・研修参加により施設平均水分摂取量
平成26年6月 1286cc ⇒平成27年2月 1426cc に向上する。
- ・オムツ使用率（日中オムツ着用率）
平成26年6月 19.30% ⇒ 平成27年2月 11.70%
- ・排便場所（ベット上でのオムツ交換率）
平成26年6月 11.40% ⇒ 平成27年2月 8.50%
- ・平成27年2月28日 認知症ケア外部研修に参加し、職員の理解向上を図ることができた。
- ・次年度は引き続き水分摂取量の増加を図り、下剤使用率減少を目指す。

【排便場所・オムツ交換率】

	H24 3月	H24 7月	H25 8月	H25 12月	H26 1月	H26 5月	H26 6月	H26 8月	H26 10月	H26 12月	H27 2月
排便場所 (ベット上)	32.20%	26.70%	22.20%	27.78%	24.14%	18.20%	11.40%	14.44%	10.75%	10.87%	8.50%
排使用具 (オムツ)	33.30%	30.20%	24.40%	30.00%	26.44%	19.30%	19.30%	14.44%	10.75%	11.96%	11.70%
水分摂取平均 (ml)	1086	1030	1084	1185	1136	1321	1286	1300	1361	1360	1426

11. その他

11-1 ボランティア部門

1. ボランティアの受け入れについては新規に、ゆる体操とカラオケが加わった。
また傾聴（話し相手）として、特養に女性1名、デーサービスに男性1名が週1回のペースで継続的に来園されている。
2. 近隣自治会との共催という形で夏祭りを実施し、出店の応援など様々な部分で自治会の方の協力を得て夏祭りを成功させることができた。
イベントに協力してくれる新規ボランティアの開拓はできなかった。次年度の課題としていく。

【ボランティア一覧表】

	月	火	水	木	金	土	日
第1		カポラッカイス 13:00～18:00	日舞 14:00～15:00 (デイ)	アロマ	ゆる体操 14:00～14:30 (デイ) 14:30～15:00		
第2		俳句の会 10:30～11:30 傾聴フレンズ 13:30～15:30	カラオケ道場 14:00～15:00 (デイ)		音楽ボランティア 14:00～15:30		
第3	アロマ 傾聴フレンズ 13:30～15:30 色塗り・編み物 14:00～15:00		ハーモニカ 14:00～15:00 (デイ)		ゴムベルト体操 14:00～14:30		
第4			カラオケ道場 14:00～15:00	リハビリ体操 15:00～16:00	絵手紙 10:30～11:30 音楽ボランティア 14:00～15:30		

11-2 家族面会

納涼祭や文化祭を開催し、その他年間を通して各ユニットでの行事等で、多くの面会があった。(1日平均 約30人の面会者)

【面会者数】

H26年度	面会数	面会人数
4月	497	729
5月	592	895
6月	515	817
7月	600	912
8月	665	1,038
9月	696	1,021
10月	713	918
11月	727	972
12月	686	908
1月	650	916
2月	630	827
3月	717	993
合計	7,688	10,946
平均	641	912

11-3 EPA (インドネシア人 介護福祉士候補生受入)

平成26年度はEPA候補生3年目となり、介護福祉士の受験となる年であった。当初2名来日したが、1名は残念ながら家族の看病が理由で帰国している。

在留継続した1名は、当初精神的に不安定な面はあったが、日本語講師（介護福祉士）や、千葉市インドネシアソサエティの方々によりサポート頂くことができた。

日本語講師との勉強、国際事業団での講習会、介護技術講習とのOJT等日々忙しく学び、平成27年1月に実施された試験において、見事「合格」することができた。

11-4 納涼祭

地域自治会や子供会との初の共同開催となり、屋台など数多く出店し盛大に実施できた。



櫓を組んで盆踊り



和太鼓のお披露目

1 1 - 5 敬老会と文化祭

平成26年度 文化祭と敬老会を同時開催いたしました

【敬老会の様子】



【敬老会の様子】

【敬老会イベントの様子】

「まっちゃんま」

松山千春のモノマネ芸人の公演



【文化祭の様子】

11-6 「ハッピー」・「ノア」・「ジョージ」

3匹の犬が施設で生活するようになり、2年が経過しました。
いつも元気に走り回っています。

ハッピー ♂



ジョージ ♂



ノア ♀

社会福祉法人 初穂会 事業報告
編集：稲毛こひつじ園 事務課
平成27年5月24日……編集